



かもめ風だより

2016.11

VOL11



メニュー紹介

扉の写真…「昭和58年1月31日 雪んこまつりの氷の切り出し」
この人・この作品…重松清『日曜日の夕刊』『ブランケット・キャッツ』
『空より高く』

音の缶詰・CDレビュー…魅力的な女性ミュージシャン列伝
シェリル・クロウ「カモン・カモン」
「100マイルス・フロム・メンフィス」
ボニー・レイット「ギヴ・イット・アップ」
「テイキン・マイ・タイム」「心の絆」

いちおしコミック…益田ミリ『すーちゃん』『すーちゃんの明日』
『すーちゃんの決心』『すーちゃんの恋』

■扉の写真 雪んこまつり用の氷の切り出し

昭和58年1月31日に常呂川の常呂大橋から少し上流にあるサケマス捕獲場で氷を切り出している写真です。これは、2月10、11日に開催する「雪んこまつり」の雪像や滑り台に使用するために、4Hクラブの青年が行っています。



こ	の	人	
	こ	の	作 品

▶▷心がほどけ、前に一步を踏み出す物語を
重松清『日曜日の夕刊』（毎日新聞社 1999）
『ブランケット・キャッツ』（朝日新聞社 2008）
『空より高く』（中央公論新社 2012）

●重松清さんは心の琴線に響く物語を紡ぎ、届けてくれる作家です。たくさんの作品の中から短編・連作の古い物語、少し前の長編物語を3作紹介します。

▶『日曜日の夕刊』日曜日の夕刊がもしあるとしたら、週明けが気持ちよく元気になるよ



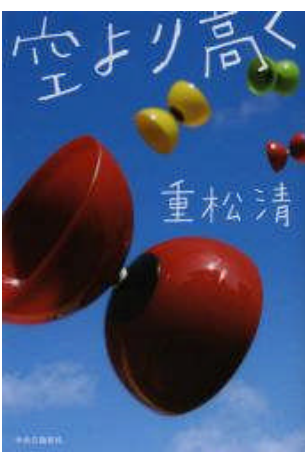
うな記事で紙面をうめて欲しい…そんな期待に応える短い物語が12編収められています。中年以上の人なら子ども時代、青春時代、社会に出ていろいろな経験をした自身に置き換えて、物語の世界を楽しめます。●その中の1編「カーネーション」は、母の日の夜、電車の網棚に置かれたままになっているカーネーションの花束を見つめる3人の男女の物語。悲しさ・いらいら・迷いと3人が抱えている母／妻に関わるわだかまりを描きながら、3人が同時に目の当たりにするできごとをきっかけに、自身の心と向き合う一步を踏み出すマジックがお見事。●12編の物語は、どれも物語の最後の文に込められた主人公たちのその後に思いを馳せつつ、余韻を味わえるという楽しみがあります。

▶『ブランケット・キャッツ』は7話の短編集。●子猫の時から使い続けている毛布と一緒



に2泊3日で貸し出される猫／ブランケット・キャットが人間の問題や運命に関わる物語です。●人間の心に染みこみ、絡み合ってしまったしこりや悲しみにブランケット・キャットがわざと波風を立て、物語にイレギュラーな状況が生まれ、どうしようもない現状から抜け出すきっかけにつながります。●唯一「旅に出たブランケット・キャット」だけは、レンタル先から逃げ出した猫が家出をしている子どもの兄妹と一緒に旅を共にし、猫が語り部となって兄妹の危機を救います。●猫の行動の不思議さ、猫と人との微妙な距離感、猫だったらこんな話があってもいいと思える物語集。どの物語も抱えきれない息苦しさ、家族の崩壊、答えが見つからない問題が多いけれど、胸にじわっと温かさが残るところが中高年向き。

▶『空より高く』この作品は、前2作とは違う長編。来年3月に廃校になる高校の3年生



の男子3人／ネタロー、ヒコザ、ドカとネタローにつきあいを告白するムクちゃんたちがピエロになってジャグリングに挑むチームを結成します。そこに、高校の第1期生だった熱血漢のジン先生が加わり、学校の終わりを新たな自分たちの出発にするために地域を巻き込むお祭りを計画します。●この物語は、おとなの入口にさしかかっている少年少女が不格好で迷いながらも前に進む姿が描かれています。作中、ヒコザやドカが背負う重い試練には、ジン先生や物語で重要な役を演じるおとなたちが見守り、彼らが自分で自分の未来を切り開くサポートをします。また、おとなも自身もしこりとなって触れられたくない過去に向きあい、自らを解放する物語にもなっています。●この作品ではジン先生が頻繁に使う「レッツ・トライ！」

が大切なキーワードとなり、物語の最後で校長先生が主人公たちを引き合いに祭りを締めるあいさつは圧巻、味わい深い！●ところで、この作品の主人公をムクちゃんにして読むと「レッツ・トライ！」のキーワードがいくつになっても大切なことを教えてくれます。ムクちゃんがどんどん魅力的な女の子になっていく成長物語にもなっています。



魅力的な女性ミュージシャン列伝

シェリル・クロウ 「カモン・カモン」
「100マイルズ・フロム・メンフィス」
ボニー・レイット 「ギヴ・イット・アップ」
「テイキン・マイ・タイム」「心の絆」

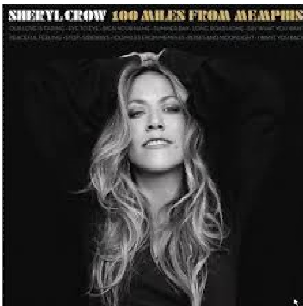
シェリル・クロウは、ロック、R&B、カントリーと何でも歌えますが、今回紹介するのはロックと古いソウルの風味がたっぷり詰まった2枚。作曲とボーカルどちらもアメリカを代表するミュージシャンであることを証明しています。●「カモン・カモン」(2002)はデビュー後4枚目の



アルバム。ごきげんなロックからバラードまでバラエティに富み、ハスキーでささやく曲、振り絞ってダイナミックに歌う曲まで

自由に歌えるボーカリストです。●このアルバムは日本でも好セールスを収め、代表曲「ソーク・アップ・ザ・サン」のうねりのあるビート、印象的なフレーズはご存じの方も多いかと思います。他にも、「イツ・ソー・イージー」ではイーグルスのドン・ヘンリーと共演し、スケールの大きなイーグルスっぽい曲に仕上げています。

●「100マイルズ・フロム・メンフィス」



(2010)は、彼女が生まれた南部の田舎町で子どもの頃からラジオで聴き慣れたメンフィス・ソウルを取り上げ、今風に仕上げられています。1曲目の「アワ・ラヴ・イズ・フェイディング」

は、ブッカーT & MG'sとメンフィスホーンの再現かと思うほどビートが効いています。テレンス・トレント・ダービーのカバー曲「サイン・ユア・ネーム」の他、ジャクソン5の「帰ってほしいの」もカバーし、厚みのあるサウンドでおとなの曲に変身させています。プロデュースはエリック・クラプトンの片腕ともいう存在のドイル・ブ

ラムホール。カラッとしていて骨太なサウンドのソウルは、聞きやすくて心地良さ抜群。

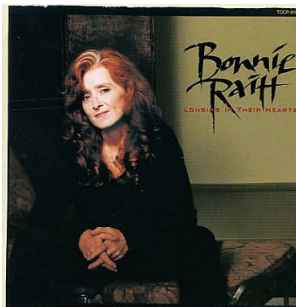
ボニー・レイットは、1949年生まれでレコードデビューは1971年。今回紹介するアルバムは初期の2枚とグラミー賞受賞後の1枚。●「ギヴ・イット・アップ」「テイキン・マイ・タイム」



は、72年、73年の作で、彼女のバックグラウンドとなっているブルースやR&Bの色が濃い曲が多く、後に彼女の代名詞ともなるスライ

ド・ギターは、このアルバムの後のこと。●ジャクソン・ブラウン、エリック・カズ、リトル・フィート、オーリアンズのジョン・ホールなど、当時の豪華な布陣が曲とサウンドを支えています。商業的な成功はまだ得られない時期ですが、良質な曲とアレンジ、彼女のハスキーで完成されたボーカルはオススメです。

●最後の「心の絆」は94年作。円熟味を



増したボーカル、しっとりとした曲が多くなりますが、ずっしりとした音の厚みはぐんと増し、バックバンドのうまさも際立っています。印

象的な曲が多く、歌のうまさも際立つアルバムになっています。●また、アメリカ南部のブルースやブルースマンに敬意を払う彼女の音楽的な姿勢は、多くのミュージシャンから尊敬を受けています。

アメリカの伝統的な音楽文化を代表する2人の女性の若い時代と円熟した時代の両方を聞きくらべるチャンスです。

★普通の女性のつぶやきが胸にしみます

益田ミリ

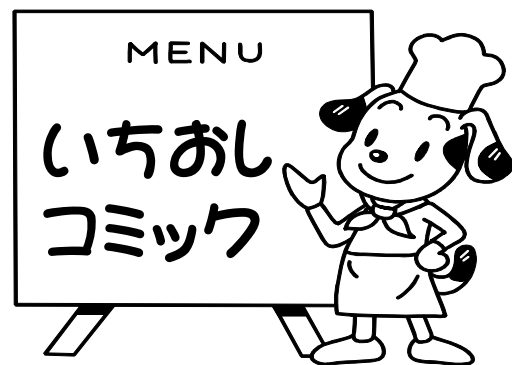
『すーちゃん』（幻冬舎文庫）

『すーちゃんの明日

結婚しなくていいですか。』

『すーちゃんの決心 どうしても嫌いな人』

『すーちゃんの恋』 *以上（幻冬舎）



●今回紹介するのは作者の代表作の「すーちゃん」シリーズ。すーちゃんはカフェで働く正社員。●簡略化した味のある絵と自身に問いかける心や感情のつぶやきが読者の胸に響きます。コミック・エッセイと呼ばれることもあり、「言葉」を大事にしています。●シリーズ最初の『すーちゃん』では、バイトのスタッフを調整することに日々エネルギーを費やしながら店長になるすーちゃんの姿とキャリアウーマンの友だちまいちゃんが仕事中心の暮らしから降り、お見合いで結婚するまでを描いています。何気ない仕事場の会話や日常のできごとに自

問自答し、苦悩しつつも自分で答えを出す2人に共感する魅力があります。●2作目の『すーちゃんの明日』では、店長になったすーちゃんよりも、13年ぶりにヨガ教室で再会するさわ子さんの今と明日に焦点が当てられます。もうすぐ40歳に届く事務職のさわ子さんは、お母さん・認知症で寝たきりのおばあさんの3人家族。さわ子さんは、お見合いで知り合った男性と結婚寸前までいきましたが、尊厳を傷つける男性の言葉ですっぱりとあきらめます。妊婦になっているまいちゃんも登場しますが、3人の女性が自分の考えや行動に恥じない自分かどうかが、この作品では重要なテーマになっています。●3作目の『すーちゃんの決心』は、店長になって2年目のすーちゃんの職場に一人の女の子が正社員として加わります。彼女のおじさんが店のオーナーで、ゆくゆくは店長になる予定…らしい。その子の言動が職場の雰囲気壊し、アルバイトの女の子たちの輪を壊す…すーちゃんの



気持ちはズタズタにされ、どう頑張っても好きになれない人がいることに気づかされます。現状から抜け出すため仕事を辞める決心をし、3ヶ月かけて次の仕事を見つけます。すーちゃんに取っては逃げるのが正義。もう1人、この作品にはいとこのあかねちゃんが登場します。30歳で結婚を約束している人がいますが、どこか釈然としない気持ちを抱えています。些細なことですが、伴侶になろうとしている人が他人に敬意を払う気持ちが足りないと感じ、そのことがしこりを抱えた気になっています。この作品では、登場する人たちが皆、自分の気持ちに正直に向き合って決断することがテーマ。●シリーズ4作目の『すーちゃんの

恋』は、保育園の給食を作る調理員になったすーちゃんが、戸惑いながらもやりがいを感じていることがストレートに伝わってきます。子どもたちの個性の多様性に驚きつつ、すーちゃんのアイディアで絵本「おおきなかぶ」「どろんこハリー」をイメージする給食を作り、先輩調理員から認められ、新しいすーちゃんの世界が広がります。●また、ベビーカーを押すまいちゃんが登場し、すーちゃんとは少し距離ができませんが、いつか以前のように気持ちよく会えるのでは…という余韻を残しています。●すーちゃんは書店員の土田くんと出会い、いろいろな絵本に出会いますが、作者の益田ミリさんは、『はやくはやくっっていわないで』『おはようぼくだよ』など絵本の文もたくさん手がけ、おとなも読める作品です。●番外編として『オレの宇宙はまだまだ遠い』（講談社）を。この作品の主人公は書店員の土田くんで書店員歴10年の32歳。この作品の中に、作者の益田ミリさんとすーちゃん、すーちゃんの友だち／まいちゃんが登場します。どこでどんな風にかは読んでみてのお楽しみ。作者の遊び心が垣間見えます。